

平成二十六年八月二十五日

餘暇の楽しみ方、漸く多様化し船の旅、普及しつつあり。但し、日本にある客船僅か三隻。然り而して乗船料、極めて高く、値打ちの價格を求めて、海外に赴く船好き珍しからず。

斯る状況、本年、變化の趣あり。米國客船會社、保有する船を二隻、數箇月間日本に置き、國內各港にて發著を繰返し客を集む。その價格、概ね日本船の半額以下なり。

我、その一に乗りたり。外國船なればオフィサーはじめ乗組員の大方は外國人なれども、客との意思疏通滑らかにせむがため臨時雇ひの日本人散見す。

航海中、船内各所に堤琴、ピアノ、歌唱などの演奏あり。稀に客向けの重要連絡、擴聲器にて案内す。これ演奏を凌ぐ大聲にて流され、各船室にても室内擴聲器を介して聞かる。

英語の案内に續く日本語、「本船は○時、◎◎港に上陸の豫定」と。「人の上陸」とは言へども「船の上陸」は奇異なり。この案内を擔當する日本人、言葉使ひを知らず。熟語を使はむには、到著、入港、寄港、著岸、接岸、等の語より選ぶべし。

然ること船内受附デスクの日本人に指摘したれば、彼、首肯す。雖然、このアナウンス一向に改らざりき。遂に航海終りの日まで、「船、上陸」を聞かざるることとなりけり。

この船には約千人の乗組員あり。自ら組織、指揮系統に定めあらむ。我が忠告受けしデスク、假にアナウンス文言を變更する立場にあらずと雖も、船中の組織系統能く機能し居れば、奇妙なる日本語正されて然るべし。客の苦情、不満、指摘を一つ所に集めて對應する部署、もしそれ無からば己の屬する部門の上司に不備を傳へ、その上司より當該部門責任者に傳ふるのとあらば、誤れる日本語の放置無かるべし。さする習慣、この船會社、有せざるが如し。

更に言はば、本船には少數なれども日本人働き居る。船内何處にても聞こえるこのアナウンス、彼等も必ずや聞きたるべし。聞かば、奇妙なる日本語と思ふべし。彼等こそその異常を唱へ、客が指摘を受くる前に訂正せむと行動すべけれ。さ、せざるは彼等が、米國會社に普通のセクシヨナリズムに陥り、他の社員、他の部門の誤りに無頓著、己の職責のみ果すを以て事足りとする意識に、既に染まりたるか。

或は、このこと然るべき經路をたどり要改善の論議されたる可能性無きにしもあらず。假に、その場合にして猶改善せられざるは、用語變更を迫りたる米國人上司に、當のアナウンス役日本人、己が間違を認めず「上陸」なる語、誤りならずと力説。上司は日本語解せず判斷の基準無ければ、直屬部下の言ひ分を聞入れたるか。

他にも、毎日配付せらるる船内新聞の日本語翻譯、意味不明箇所多くして、都度都度、英語版原本との照合を餘儀なくせられたれば、責任者の日本語能力欠缺如こそ諸惡の根源と思はるれ。假に、航海中には我の他に間違ひを指摘する乗客無しとて、下船時に提出するアンケートにこれを言及する人、必ずやあるべし。次の航海にこの「船の上陸」案内、正されたるか否か、知りたき。